PARK NEWS MAGAZINE
Vol.002 2022.February

みんなの公園愛護会

公園ボランティア実態調査2021

A Talk in the Park 02

師岡打越第三公園（横浜市）

「誘われて活動しているうちに
気が付くと世代交代していました」

こんにちは。『みんなの公園愛護会』です

みなさんにとって「公園」は、どんな場所ですか？
子どもたちが元気に遊び回ったり、
季節を感じながらゆっくりしたり、
仲間と楽しくおしゃべりしたり。
いつでも、誰でも、みんなが自由に過ごせるのが、
公園の良いところですね。
私も、自分の暮らす街で友人と一緒に
公園ボランティアの活動をしています。
地域の公園を守ってくれる人がいることは、
子どもの頃からなんとなく知っていたものの、大人になって、
いざ自分がやる側に回ってみると、とっても学びが多いもの。
そして何より、面白い。
公園の新たな遊び方を開拓しているような新鮮さがあります。
知りたいことがどんどん溢れてきます。

この公園ボランティアの活動にもっと仲間が増えたら、
そして、みんながより充実した活動を続けることができたら、
という思いでこの団体をスタートして2年目。
いろいろな公園ボランティアや、
その活動を支援する自治体職員の皆さんに、活動のヒントや、
それぞれの思いや工夫、楽しみを見せてもらうことができました。
地域のため、子どもたちのため、社会貢献や地域の繋がりのため。
はたまた、自身の健康のため、仲間と一緒に活動するのが楽しくて。
地域の公園は、本当に多くの人々の手に守られ、
育てられていることを思わずにはいられません。
私たちは、公園ボランティアを応援しています。
問題や課題を一緒に考えます。楽しさを分かち合います。
「こんな時、みんなはどうしてるの？」
さまざまな情報を集め、みんなの経験や知恵を共有します。
公園を一緒に楽しみ、一緒に育てるような視点で、
お互いに活動を見せ合ったり、助け合ったりして、
楽しく盛り上がっていくためのきっかけを作っていきます。

一般社団法人「みんなの公園愛護会」代表　椛田里佳

A Talk in the Park 02 @師岡打越第三公園

誘われて活動しているうちに気が付くと世代交代していました

子育て世代を中心に多世代で楽しく活動

今回の『A Talk in the Park』では、公園利用者でもある子育て世代が中心となって、多世代で楽しく活動している事例として、横浜市港北区にある師岡打越第三公園の愛護会に注目します。先輩世代からどのようにバトンを受けたのか、多世代でどう楽しんでいるのかなど、中心メンバーである寺田さんご夫妻に、『みんなの公園愛護会』代表の椛田里佳が聞いてきました。

椛田　寺田さんご家族は、2017年にこちらに引っ越して来られたそうですね。

有梨さん　はい。以前は都内で暮らしていましたが、子どもが産まれて保育園のことを考えたときに、2人の実家にも近いということで、ここを選びました。その頃は公園愛護会のことは知らず、家の前に公園があるのは素敵だね、なんて感じでした。

椛田　どういう経緯で公園愛護会に参加されたのですか？

有梨さん　引っ越して来てすぐに、ご近所の方が挨拶に来てくださった時に「今度ここの公園でお掃除があるから、よかったら参加してね」って言われたのがきっかけです。近所の方はみんな参加しているし、楽しいからいらっしゃいって。

大地さん　後から聞いたのですが、新しいファミリーが越してきたから、みんなで声をかけて愛護会に誘おうって計画があったらしいです（笑）。

椛田　当時の愛護会のメインは、長く活動されてきた方たちですよね？

有梨さん　はい。この公園ができたのが約30年前で、その時に愛護会が発足したと聞いています。公園のお掃除はもちろん花壇作りにも取り組んで、その活動が表彰されたこともあったみたいです。ただ、メンバーの高齢化や参加者の減少によって管理が行き届かない箇所が増え、もどかしさを感じていたようです。手をかけてきた花壇だからこそ、想いが強かったのだと思います。

地域と繋がった きっかけは愛護会

大地さん　僕たちも最初は愛護会に入ったという感覚ではありませんでした。でも参加してみたら、汗かきながらしゃべりながらで楽しくて。

有梨さん　最初に参加した時、みんなで集合写真を撮ったのですが、後日、当時の会長さんがそこに写っている人の名前を書いて持って来てくださって。そのおかげで、引っ越して早々にご近所さんの顔と名前が一致したので、とてもありがたかったですね。

椛田　それ、すごく素敵なアイデアですね。

有梨さん　そういったこともあって、なんだかとても気持ちよく巻き込まれた感じです。

椛田　寺田さんが愛護会の活動に参加し始めてから、どれくらいで世代交代することになったのでしょうか。

有梨さん　正式に引き継ぎの手続きをしたのが2020年なので、2年くらいですかね。引き継ぐといっても、今まで通り先輩メンバーもアドバイザーとして参加してくださるとのことでしたので、それほどプレッシャーには感じませんでした。

多年草に変えて 作業負荷を軽減

椛田　確かに、先輩たちも継続して活動に参加してくれるのは心強いですよね。若い世代に引き継いでから、活動に変化はありましたか?

有梨さん　まずは花壇。以前のような綺麗な花壇を作りたいけど、みんな子育てに忙しいし共働きの家庭も多いので、あまり労力はかけられないよね、と若いメンバー同士で話していました。

大地さん　実は引っ越してきてから自宅の庭づくりのために近所の園芸屋さんに通っていたところ、ローメンテナンスでも素敵に見える植栽のスタイルがあることを教えてもらったんです。これを公園に応用できたらいいな、と思いついて。

有梨さん　それで、「やりたい花壇のイメージがあるですけど」と話してみたら、みなさんも賛同してくださったので、新しい方法を導入することになりました。具体的には、ナチュラリスティックガーデンと呼ばれる多年草や球根を使った花壇です。季節による変化や枯れる姿も楽しめます。

椛田　先輩メンバーの反応はどうでしたか?

有梨さん　前の会長さんはじめ、30年も続けてきたメンバーのみなさんは、お花がとても好きで、花壇にはとてもこだわっていたので、そのやり方を変えて良いものか悩みました。でも、「こういうのはどうですかね」って相談してみたら、「いいよ、やってみよう」と、好意的に受け止めてくださったので良かったです。

大地さん　全くゼロにして作り直すのではなく、前の会長さんにいろいろ話をうかがいながら、今ある植物の良いところは残して、特性に合わせて植物の配置を換えるようにしました。植物の配置に関しては、園芸屋さんに聞いたり、本を買って調べたり。

有梨さん　そうそう、家族で作戦会議したり、公園に図鑑を持参して植物を観察したり、写真に撮って記録に残したり。そうした過程もまた楽しくて。

情報発信で増える コミュニケーション

椛田　愛護会のフェイスブックページ『師岡みんなの花しごと』を拝見しましたが、みな

さんで花壇作りを楽しんでいる様子が伝わってきますよ。

大地さん　フェイスブックでの発信も僕たち世代に引き継いでから始めたことだよね。

有梨さん　最初は記録を残すことが目的だったのですが…。

大地さん　やっているうちにハマっちゃったね。

有梨さん　そうなのです。育休中だったり、コロナ禍だったりで、息抜きじゃないですけど、子どもと一緒に公園で楽しめること、仕事以外で取り組めるライフワークが欲しいなと思っていたところだったので、愛護会の活動と発信はまさにピッタリでした。始めた当初は全然反応がなかったのですが、次第に他の公園愛護会の方と繋がったり、行政も注目してくれるようになったり、少しずつ効果が出てきているみたいです。

椛田　そうですよね、若い世代が積極的に公園愛護会の活動をしていたら、行政も注目したくなりますよね。

大地さん　僕たち世代が引き継いでからは、行政の方と頻繁に連絡を取るようになりました。相談してみると親身になってアドバイスやサポートをしてくれ、とても心強く感じています。

椛田　公園内の掲示やお知らせも素敵なんですよね。植物の情報や活動の様子を紹介する「花しごとだより」や、ゴミ持ち帰りのサインとか。

有梨さん　これを見て、近所の若い世代が気軽に公園愛護会に参加してくれたらいいな、という思いもありました。活動の写真をプリントして、次回のお知らせと一緒に、ご高齢の方のお宅に届けたら、喜んでくれて。赤ちゃんから80代まで多世代が参加する活動になっています。

椛田　写真の恩返し！（笑）。とても楽しく活動されているようですね。

子育て家族と公園の大きな可能性

大地さん　そうですね、公園が自分たちの暮らしの一部になったのかもしれません。

有梨さん　愛護会の活動が家族の行事になりましたし、花壇や公園が共通の趣味になっているのでご近所の方とも話題が絶えません。その影響でしょうか、子どもたちも花遊びに慣れて、今では花壇作りの立派な戦力になっていますよ。

椛田　今回寺田さんご夫妻にお話を伺って、子育て世代の楽しみとしての公園ボランティアの可能性を感じました。これからも、いろいろな会話をしながら、一緒に繋がりを広げていけたらと思います。

公園愛護会“みんな”のコメント

毎月1回の集まりですが、皆が楽しく会話しながら清掃をしていて、大切なイベントになっています。

近所の方が来られて「コロナ禍の気持ちが落ち込んでる時にここにきたら花がきれいで」と目を輝かせて、お礼を言ってくださった時には、みんなで喜びました。

活動前までは交流のなかったご近所の方々と知り合い、おつきあいするようになり大変良かった。

中学生の男の子のひとりが、帰る途中で戻って「いつもありがとうございます」と、ペコリと頭を下げて言ってくださった時は感動しました。

活動を終えてみんなでお茶とお菓子を食べながら世間話をできることが楽しい。

「清掃」と言うと抵抗をもたれる方もいるので、体を動かすための運動であり「心地よい汗をかいてみませんか」そして「公園も綺麗」になり、一石二鳥ですよと呼びかけております。

公園ボランティアとして活動している理由は、地域に憩いの場所を作りたいから。

近くの小学校の校長先生から、苗植え体験の依頼があって、子どもたちと一緒に楽しく苗植えや水やりができたこと。これからも子どもたちと接していきたい。

高齢化が進み、公園清掃に参加できない人も増え、参加している人への負担が大きくなっている。できる限り頑張りたいが、あまり長くは続かないのではないかと不安になる。

みんなの公園愛護活動レポート

他にもWEBサイトで公開中!

スマイルパークこわだ愛護会

設立10年記念に愛護会Tシャツを作り、やる気アップ。子どもの心を育てる花壇も新設し維持運営中。

松が丘第二公園愛護会

色褪せた公園の遊具を自分達でペンキ塗り。毎年一つ大きなテーマを設定することが張り合いに。

新川崎ふれあい公園管理運営協議会

地元のNPOが地域の親子や保育園児に、自然遊びをプレゼント。体験農園では、野菜も栽培。

桜小路公園愛護会

外来種の繁殖する池を自分達で再生。今では、約5000輪の蓮が咲く地域で愛される蓮池に。

井田杉山町公園管理運営協議会

誰でも花に水やりができるジョウロを公園に常設。利用者が花壇関与者に。名称は「愛のひとかけ」。

私立向上高等学校なおき会

高校の生徒会で行う公園愛護会。活動内容は、公園の掃除と、地域の子どもたちと一緒に遊ぶこと。

公園愛護会“みんな”の活動の様子や楽しいひとときを募集しています!

WEBサイト
www.park-friends.org

LINE公式
みんなの公園愛護会
友だち登録はこちらから!

みんなの公園愛護会では、公園ボランティア活動をされている皆さんの活動事例をWEBサイトで紹介しています。記事更新時のお知らせなど、LINE公式アカウントで発信しています。ぜひ、みんなの公園愛護会をLINEで友だち登録してください。

みんなどう考え、どうしてる？
データで検証、公園愛護会の今。

公園ボランティア実態調査2021

この実態調査は、2021年6月から12月に全国の自治体と
2292の公園愛護会等ボランティア団体の皆さまにご協力をいただき実施しました。
さらに詳しい調査結果の完全版をホームページでも公開しています。
右記QRコードよりご確認いただけますので、皆さまの活動のヒントとして、ぜひご活用ください。

全国自治体編

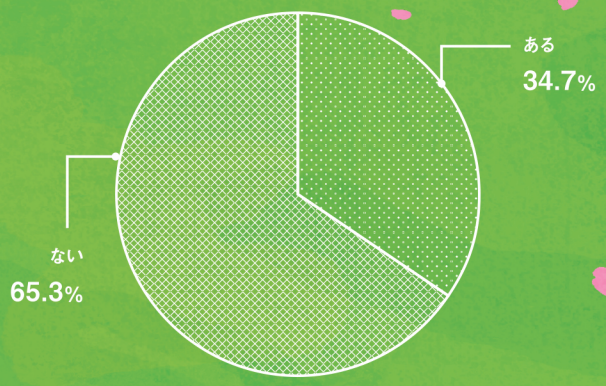
公園ボランティア編

全国自治体編

一般社団法人みんなの公園愛護会では、公園愛護会、公園アダプト制度ほか、様々な制度で行われている市民の公園ボランティアに関して、全国の自治体を対象に、ボランティア制度の有無や支援の内容・課題などを調査しました。

調査の趣旨	公園愛護会はじめ各自治体で行われている市民の公園ボランティアに関する実態と現状を多角的に把握し、高齢化および担い手不足が課題とされる公園愛護会など住民による地域の公園への積極的な関わりをサポートするための参考にする。
調査方法	期間：2021 年 6 月～ 8 月 方法：インターネットフォームおよびメール 対象：公園を有する全国 47 都道府県内の 1,346 市区町村 公園管理に関する部署の担当者
調査結果	回答数：761 件（756 市区町村 +4 県 +1 広域市町村圏事務組合） 回答率：56.2%

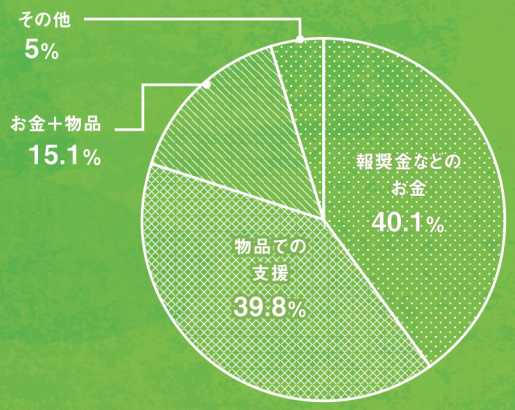
1 制度の有無



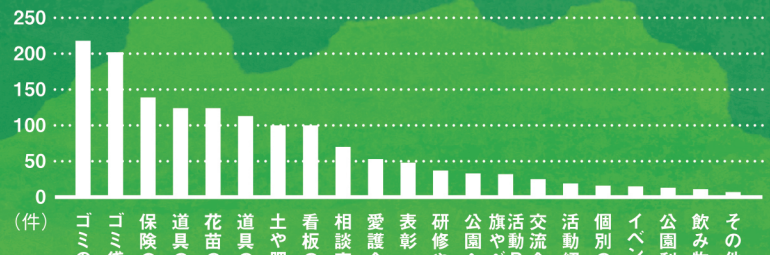
公園の清掃や花育てに関するボランティア制度について、回答のあった761のうち264自治体（34.7%）に、地域住民による公園ボランティアの制度があることがわかった。中には活動場所を公園に限らず、その他のパブリックスペースも含めて広く活動サポートするものがあったり、制度がある自治体のうち20.5%は、目的によって2つ以上の制度を併用していることがわかった。また、公園ボランティアは、特定の地域のみに存在するものではなく、北海道から九州まで広く地域に根付いていることもわかった。

2 支援のタイプ

公園ボランティア団体へ自治体からどのような支援を行っているのか?その内容については、お金で支援するケースと、物品で支援するケースがそれぞれ約40%ずつ、お金と物品の両方で支援するパターンも15%あった。その他、ボランティアポイントシールや商品券などの地域で使えるものでの支援や、ボランティア保険への加入のみ、情報提供のみ、といったケースもあった。それぞれの自治体ごとに、様々な方法で公園ボランティアの支援が行われている。

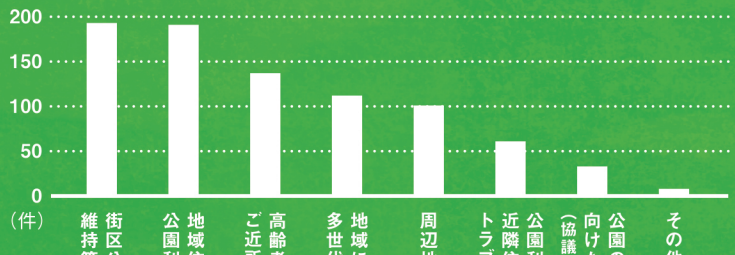


3 サポート内容



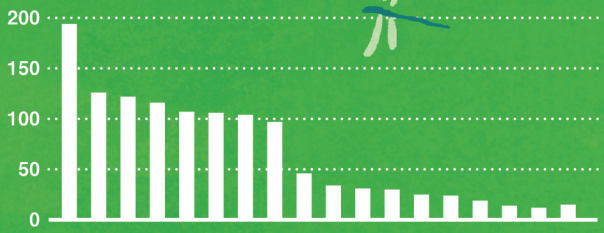
行政が支援金以外で行っているサポート内容として最も多かったのは、ゴミの回収（84.2%）、次に、ゴミ袋の提供（78.0%）、保険の加入（53.7%）、道具の貸出、花苗の提供（ともに47.9%）と続いた。また、交流会や、活動紹介情報誌の発行、イベント企画支援など、清掃や花育て活動以外の、楽しみづくりの支援についても一定数あることがわかる。

4 公園ボランティアがもたらしている価値や効果



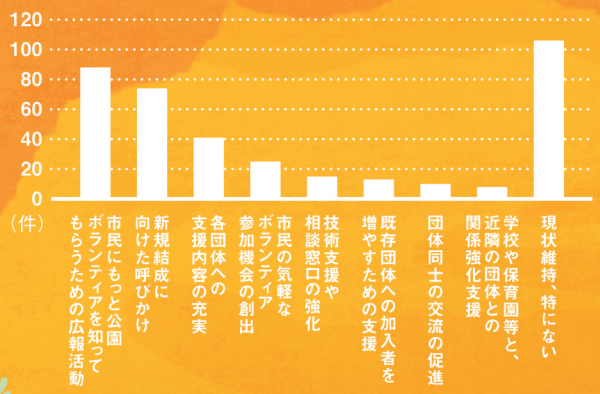
街区公園の維持管理のコスト削減（76.9%）と地域住民による公園利用の活性化（76.1%）が最も多かった。その後、高齢者の健康維持やご近所見守り効果（54.6%）、地域における多世代交流（44.6%）、周辺地域の防犯（40.2%）と続いた。公園ボランティア活動は、公園の維持管理コスト削減と同時に、公園を中心とした地域活動や住民交流にも有効であると各自治体が認識していることがわかる。

5 公園ボランティアの抱える課題



担い手の高齢化による活動量の減少（73.8%）が最も多く、エリアを問わず共通の課題として1位になった。次いで、新規結成が少ない（47.9%）、新たな担い手の発掘に苦戦（46.4%）、既存団体に新しいメンバーが加入しない（44.1%）と続いた。その他、新規加入者は一定数いるが、団体内でリーダーシップを取れる人が少ないため、特定の個人に負担がかかっているという声もあった。最も大きな課題を聞いた設問では、全体の43.3%が担い手の高齢化による活動量の減少を上げダントツの1位。既存の団体の高齢化による活動の先細りと、それに代わる新たな担い手の確保の難しさの両面があることがわかる。

6 自治体として力を入れていること



現状維持、特にない（40.8%）が最も多かったが、市民にもっと公園ボランティアを知ってもらうための広報活動（33.8%）、新規結成に向けた呼びかけ（28.5%）、各団体への支援内容の充実（15.8%）が上位に入った。ボランティアの入口としての講座を行っているという自治体や、ホームページで各団体の紹介をしているといった声もあった。最も力を入れていることも併せて確認した。ここでも現状維持、特にない（30.1%）が最も多く、市民にもっと公園ボランティアを知ってもらうための広報活動（26.2%）、新規結成に向けた呼びかけ（18.9%）と続いた。自治体としても、様々な方法で、新しい担い手の掘り起こしに注力していることがわかる。

「全国自治体編」調査を終えて

●制度の有無と都市人口の関係について
傾向として、人口規模が一定以上の自治体には公園ボランティア制度がある場合が多く、人口規模の小さな自治体には制度がないというケースが多いことが見えてきました。回答のあった人口15万人以上の市区町村では84.3%に公園ボランティア制度があり、15万人以下で制度がある自治体は25.2%でした。同時に、制度がない市区町村でも、自治会や町内会が地域の公園の維持管理に関わっているという場合も多く、制度の有無に関わらず、公園が地域の人の手で守られていることがわかります。

●メンバーの固定化とコミュニケーション不足
共通の課題である「高齢化」と「担い手不足」の背景には、「メンバーの固定化」と「コミュニケーション不足」が隠れているようです。いつも同じ決まった人たちだけが、ただ静かにやっているだけだと、孤独感が募り寂しいものです。新しい参加者を増やすのが一番ですが、公園利用者や地域の人からの「ありがとう」の一言だけでも、活動の大きなエネルギーになることが、これまでに集めた多くの担い手からの声で伝わってきています。

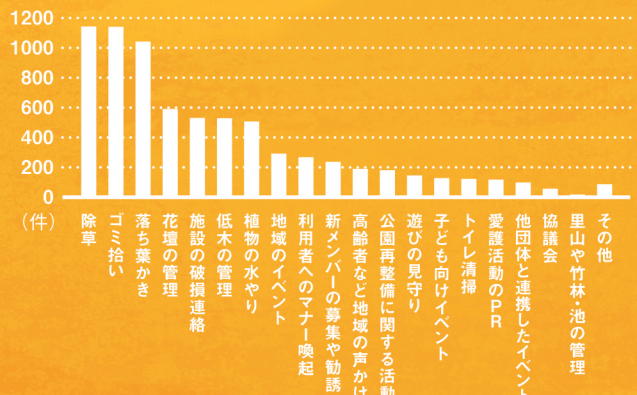
●公園ボランティアがもたらす価値
公園ボランティアがもたらす価値については、街区公園の維持管理のコスト削減だけに止まらない、地域住民による公園を中心とした地域コミュニティの可能性も強く感じられます。公園清掃や花育ての活動は、地域の人々が定期的に集い交流を深めるきっかけとして機能しているほか、公園が日常的に地域の人々の手で守られていることで、より多くの利用者が安心して公園を利用することができ、地域全体の暮らしやすさ向上に繋がっているのではないかとも考えられます。

公園ボランティア編

一般社団法人みんなの公園愛護会では、公園愛護会、公園アダプト制度ほか、様々な制度で行われている市民の公園ボランティアに関して、各地で活動する担い手団体を対象に、活動内容や人数、メンバーの属性、やりがいや課題などのアンケート調査をしました。

調査の趣旨	各自治体で行われている市民の公園ボランティアに関する実態と現状を多角的に把握し、高齢化および担い手不足が課題とされる公園ボランティアや、住民による地域の公園への積極的な関わりをサポートするための、参考にする。
調査方法	期間：2021 年 9 月～ 12 月 方法：アンケート用紙郵送およびインターネットフォーム 対象：全国 37 自治体　2292 の公園ボランティア団体 ＋インターネットによる自由参加
調査結果	回答数：1319 件　回答率：57.5%（うちインターネットからの回答 5.7%）

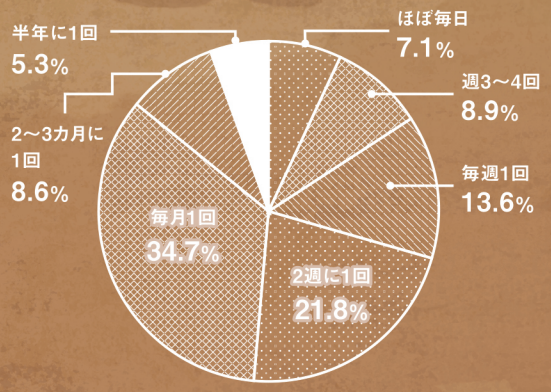
7 活動内容ついて



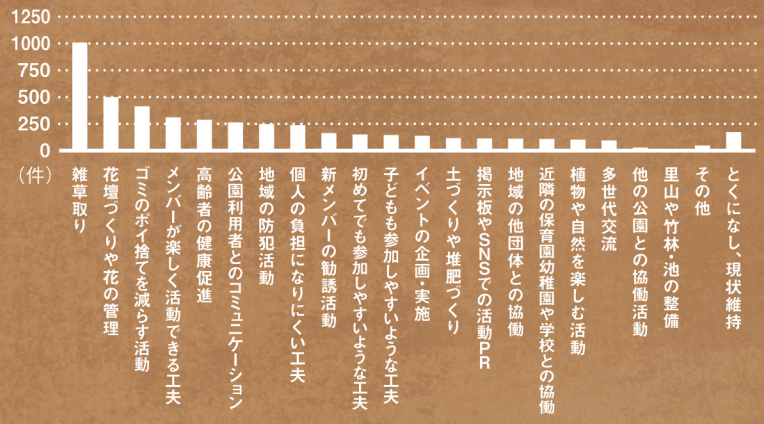
公園ボランティアの活動内容として最も多かったのは、除草（87.7%）、ゴミ拾い（87.6%）、落ち葉かき（80.0%）の3つで、回答のあった団体のうち約8割以上がこれらの活動をしていることがわかった。地域のイベントや子ども向けイベント、高齢者など地域の声かけ、遊びの見守りなど、清掃以外に、公園を利用した地域の交流活動が行われていることもわかった。また、新メンバーの募集や勧誘、愛護会活動のPRといった公園ボランティア仲間を増やす活動も行われている。この2年はコロナ禍で活動が難しいというコメントも多く、出来ることをそれぞれ工夫しながら活動していることがわかった。

8 活動の頻度について

毎月1回（34.7%）が最も多く、2週に1回（21.8%）、毎週1回（13.6%）と続いた。ほぼ毎日活動している団体や週3-4回活動している団体もあり、全体の約87.8%の団体が、月1回以上活動していることがわかった。2-3ヶ月に1回、半年に1回という団体もあり、それぞれのペースで活動していることもわかる。個人的な活動がある場合、その頻度も尋ねた。団体としての基本活動以外に、個人的な活動をしている人も、71.1%いることがわかった。その頻度は、ほぼ毎日（20.7%）や毎週1回（16.6%）など、団体としての基本活動の合間に個人で活動をしているケースが多い様子。これらの個人活動は、行政への報告書には記載されない活動の実態と見られる。花壇の水やりや気がついた時のゴミ拾いなど、不定期にやっているという声もあった。



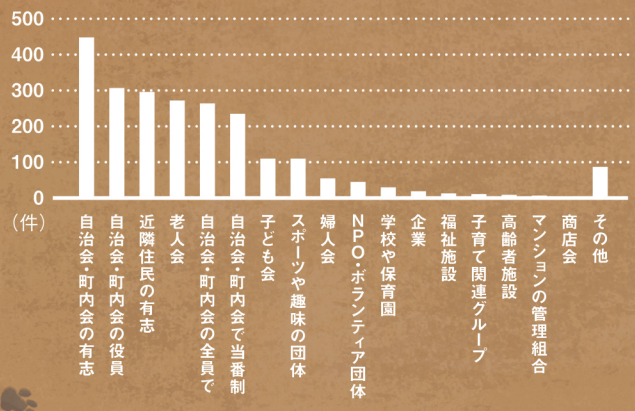
9 工夫していること



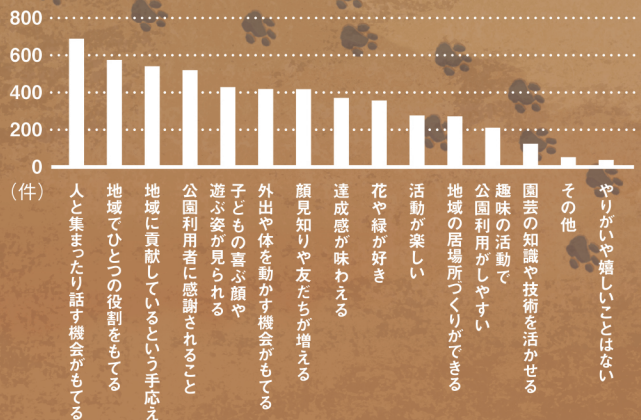
雑草取り（78.3%）が1位で、多くの団体が最も力を入れていることがわかった。次に、花壇づくりや花の管理（38.8%）と続いた。メンバーが楽しく活動できる工夫（24.1%）、高齢者の健康促進（22.4%）、公園利用者とのコミュニケーション（20.5%）、個人の負担になりにくい工夫（18.5%）など、団体の運営方法に関する工夫や、より充実した公園利用に関する工夫も、一定数見られた。

10 活動メンバーについて

公園ボランティアの担い手は、自治会・町内会の有志（34.2%）が最も多いことがわかった。次に自治会・町内会の役員（23.4%）、近隣住民の有志（22.6%）、老人会（20.8%）と続いた。自治会や町内会といった地縁団体の名前で活動しているという場合でも、その年の役員が担当する／全員で／当番制で／一部の有志が継続して活動するなど、様々な活動の実情が明らかになった。地縁団体以外では、スポーツや趣味の団体（8.4%）として、グランドゴルフやラジオ体操のサークル、少年野球チームが担っていたり、学校や保育園、企業、福祉施設、商店会が活動しているケースも見られた。

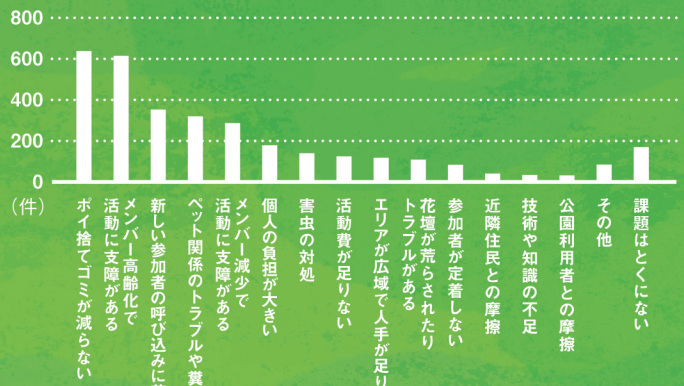


11 やりがい



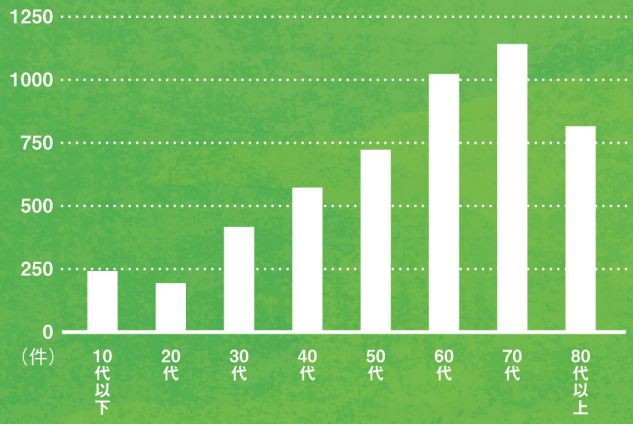
公園ボランティアのやりがいや嬉しいことで、最も多かったのは人と集まったり話す機会がもてる（54.6%）であった。次に、地域でひとつの役割をもてる（45.6%）、地域に貢献しているという手応え（42.9%）と続いた。同時に、子どもの喜ぶ顔や遊ぶ姿が近くで見られる（34.0%）、外出や体を動かす機会がもてる（33.2%）というように、楽しみや健康のためといった声もあった。花や緑が好き、園芸の知識や技術を活かす場所があるなどの回答や、グランドゴルフチームなどでは、自分たちの趣味の活動で公園利用がしやすいことなどの回答も見られた。一方、やりがいや嬉しいことはない、義務感で行っているというコメントもあった。

12 活動している上での課題



ポイ捨てゴミが減らない（50.6%）、メンバー高齢化で活動に支障がある（48.8%）、新しい参加者の呼び込みに苦戦（28.0%）が上位。高齢化問題は実に約半数の団体が、活動に支障があるとしているが、新し参加者も増えず、メンバーも減少するという複数の要因が絡み合っていることがわかる。この 2 年間はコロナ禍で思うように活動が出来ていないという声が多かったが、年々参加者が減っているという声や、義務感でやるしかないという実情、ゴミに関しては、タバコの吸い殻やペットの糞・飲食後のゴミの放置が多いことなど、多くのコメントが寄せられた。

13 メンバーの年齢構成



各世代ごとにメンバーの有無を聞いた設問。70 歳代のいる団体が最も多く、回答のあった団体のうち 89.1% に 70 歳代がいることがわかった。次いで、60 歳代（79.8%）、80 歳代以上（63.7%）と続いた。0-10 歳代がいるのは、全体の中で 18.9% で、公園を最も利用していると考えられる子ども世代も一定数活動に参加していることが見える。大規模な自治会・町内会のように、全世代がいる団体もあれば、70 代と 80 代だけで構成されているシニアの団体、10 代と 20 代・30 代・40 代で構成される子育て世代中心の団体など、様々であった。

「公園ボランティア編」調査を終えて

●全国共通点と地域の実態にあった活動

公園ボランティアの活動内容や人数、メンバーの多くが高齢化で活動に支障が出てきていることなど、大きな傾向や課題感は全国で共通していることがわかりました。一方で、フリーコメントを始め、細かい部分では地域差が出ていて、地域ごとの公園や活動の実態が伝わってきました。たとえば、ペットの糞対応や投棄ゴミの内容に加えて、猫やハトへのエサやりやその後始末に困っていること、観光含め地域外の人の利用に関すること、自然保護や野生動物への対処など、様々な公園の日常の風景が垣間見られ、各地域の環境や文化・人々の生活実態に密接した活動になっていることが改めてよくわかる結果となりました。

●やりがいとモチベーション

人の役に立ちたい・地域や公共のためにといった、地域貢献や社会参加の気持ちが、活動へのエネルギー源になっていました。同時に活動継続のためには、社会的なやりがいの他にも、自身の健康維持や楽しみになるなどの、内的な動機もとても大きな要因になることも見えてきました。公園利用者からの感謝や、地域の人々とのコミュニケーションも、やりがいに大きく繋がっているようです。コメントでも、様々な人からの感謝の言葉が、喜びや活動への意欲に直結する様子が多く伝わってきました。逆に日々の活動が誰からも評価されなかったり、義務感や不公平感だけがあって、やりがいはないといった残念な声も一部ありました。ボランティア活動に対し、感謝の気持ちが可視化されたり循環するようなことが起きていけばいいなと思います。

●公園ボランティアのこれからを応援

新たな担い手として、公園を利用する子育て世代や、学校、企業などの存在も見えてきました。また、地域の団体と保育園や福祉施設などの協働の例も見られました。公園ボランティアの担い手の裾野を広げるためにも、私たちはこれから様々な事例を取材し紹介することで、多くの皆さんの活動のヒントになったり、より充実した気持ちで活動できるような情報の共有をして、活動を応援していこうと考えています。

みんなの公園愛護会

名称／一般社団法人 みんなの公園愛護会　所在地／東京都千代田区有楽町1-2-12 KOKOビル3F
連絡先／hello@park-friends.org　代表／椹田里佳　設立年月／2020年6月
イラスト／高安恭ノ介　撮影／松村隆史　編集執筆／中野剛
制作・デザイン／タラコデザイン株式会社　ディレクション／株式会社空気読み

VEGETABLE OIL INK

FSC ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C007665